

平成23年度「独立行政法人福祉医療機構」助成（地域連携活動支援事業）

平成23年度
「Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト」

実施報告書



一人暮らし高齢者宅へのお弁当宅配とアンケートの様子から

社会福祉法人 恵風会



はじめに

社会福祉法人恵風会 あざみ園

園長 堀岡 浩

あざみ園にとっては、山田（Y）地区と隣接する八尾（Y）地区の活動団体等と初めて連携した事業、「平成23年度 Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト（以下、本事業）」が、実験的とはいえ、事前準備も含め約9か月間を経て、無事第一段階を終了することができました。

本事業を通じて、感じましたことは、何よりも当園職員自身が、本事業の面白さや仕事に対する熱意・夢を感じとらせていただくとともに、地域と福祉施設との連携の大切さを改めて体感したことであると思っております。ここに参加していただきました諸団体の皆様に、まずは厚く御礼を申し上げます。

知的障害者更生施設である当園は、開設以来、25年間にわたって地域の皆さんに支え続けられてきました。歌を忘れたカナリアではありませんが、地域の中にあって社会福祉法人の果たすべき役割を忘れかけていたように思います。

「いつかは地域に貢献し、真の意味で地域と共に歩む施設づくりでありたい。地域から関心の持たれない施設づくりであっては、マンネリ化した一方通行の障害者支援施設になってしまう。施設の姿勢、職員の仕事に対する意識を変えたい、変わらなければならない。」という思いがあり、そのきっかけとなるものを探しておりました。そのような時に、地域のネットワークを活用するという本事業を企画いたしましたところ、大変ありがたいことに、独立行政法人福祉医療機構からの助成を得ることができ、今回の実施に至ったという次第です。

また、本事業では、大きく3つの成果があったと思っております。

1つ目は、福祉施設同士だけでなく、様々な地域づくり団体と連携した新たなネットワークを構築することができたということです。

2つ目は、高齢者への配食サービス等を行うことは、今後、当園にとって地域とのかかわりを深めていくための大切なアプローチであり、高齢者の社会的孤立防止へとつながる活動にもなりうるということが分かったということです。

3つ目は、中山間地における耕作放棄地の復元を行うことは、地域の活性化に十分つなげられるということも、改めて感じるすることができたということです。

これらのことは、当園にとって非常に大きな収穫であったと思っております。今回、本事業で得られた知見が、次に進む段階への大きな礎となり、今後も「Y・Yネットふるさと創造会議」が継続され、過疎化が進む地域への活性化の一助になれば幸いと願っております。

終わりに、本事業に助成していただきました独立行政法人福祉医療機構のご支援ならびにご協力に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

平成24年3月

目 次

はじめに

1. 旧山田村（現富山市山田）の現状	1
2. 社会福祉法人恵風会あざみ園の概要	1
3. Y・Yふるさと創造・絆プロジェクトについて	2
3-1. Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト事業企画の必要性	
3-2. Y・Yふるさと創造・絆プロジェクトの目的	
4. Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト事業全体スケジュール	3
5. Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト実施と成果の概要	
5-1. Y・Yネットふるさと創造会議の設置と開催概要	4
5-1-1. Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト役割分担表	5
5-2. 配食サービス等実験提供事業の実施概要	6
5-2-1. 配食サービス等実験提供事業 活動報告	7
5-3. 耕作放棄地復元活用システム構築事業の実施概要	16
5-3-1. 耕作放棄地復元活用システム構築事業 活動報告	17
<資料> Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト 実施構成団体の紹介	
(1) 富山市八尾山田商工会	23
(2) 山田地域社会福祉協議会	24
(3) 越中八尾ふるさとづくり協議会	25
(4) 特定非営利活動法人愛和報恩会	26
(5) 富山県がうん天蚕の会	27
(6) 社会福祉法人恵風会あざみ園	28

1. 旧山田村（現富山市山田）の現状

旧山田村は、平成 17 年に、富山市、大沢野町、大山町、八尾町、婦中町、細入村の計 7 市町村が合併したことにより、現在富山市に位置づけられている。平成 24 年 2 月末現在の旧山田村の人口は 1,683 人（男性 832 人、女性 851 人）で、高齢化率は 28.8%となっており、富山市内 7 地区の中でも細入地区の 36.9%に続き、2 番目に高齢化率の高い地域となっている。

また、年少人口（0~14 歳）は 186 人であり、今後さらに少子化も進行していくことが十分予想されるとともに、老老世帯や独居老人世帯も増加している地域となっている。

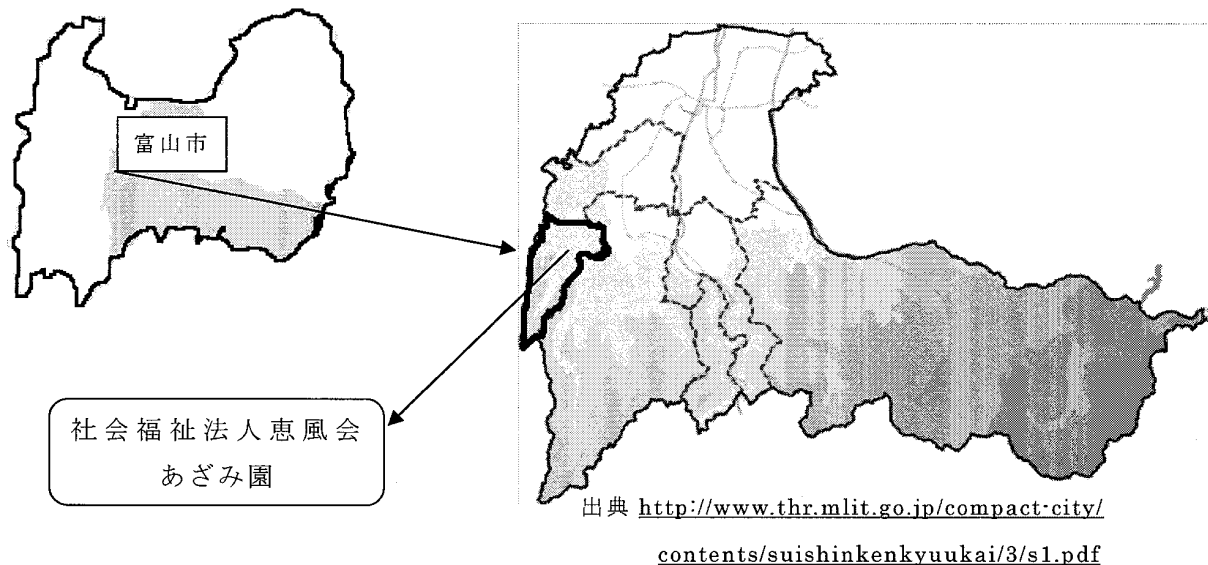


図 1 富山県富山市山田村について

2. 社会福祉法人恵風会 あざみ園の概要

2-1. 施設概要

開設年月日 : 昭和 62 年 4 月 1 日
設置主体 : 社会福祉法人恵風会
種 別 : 知的障害者入所更生施設
定 員 : 入所 80 名、ショートステイ 2 名

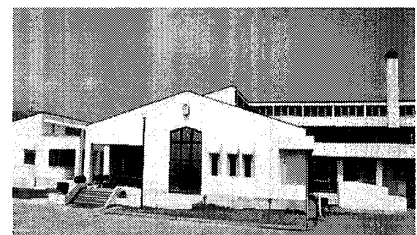


図 2 あざみ園の全景

2-2. 主なサービス内容

自立支援型活動 : 自立支援の一環としての作業活動の支援
生活支援型活動 : 生活の中に楽しみや喜びが感じられる活動の支援

2-3. 活動内容

パン、手組み紐、薪を生産し、地元山田地域の販売所だけでなく、富山大和フェリオ 1 階のチャレンジド・ショップで随時販売を行っている。

3. Y・Yふるさと創造・絆プロジェクトについて

3-1. 「Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト」事業企画の必要性

前述のとおり、富山市山田地域および隣接する八尾地域といった中山間地域は、限界集落化し、地域や社会とのつながりも希薄化し、集落機能が急激に損なわれつつある。また、リーダーのいる元気な集落とリーダー不在の集落では「地域の再生力」に大きな格差が生じている。

また、山田・八尾地域の中山間地域は、富山市の中心市街地から20km以上離れた山間部であるが故に、富山市が行う「食の自立支援事業（概ね65歳以上の在宅の一人暮らし高齢者等への訪問による昼食と夕食の提供と安否確認を行う）」では、高齢者や包括支援センターからの要請があっても、サービス提供事業者の配達エリア外とされている地域でもある。

そこで、富山市では、八尾地域の中山間地域の公共交通や車等の移動手段がない高齢者等への買い物を支援するために、集落を限定して、週に1、2回のペースで巡回し、食料品を販売する「移動販売車支援事業」を社会実験的に開始した。しかしながら、受託事業者の1台の移動販売車だけでは山田・八尾地域の全てをカバーすることは到底できない実態となっている。

このような山田・八尾地域といった人口が減少し、高齢化した集落機能の維持が限界水準に達しつつある地域を再生するためには、「何が必要なのか」、「再生できる地域資源や地域文化は残っているのか」、「新たに創出するためには何をすべきなのか」を問いなおした時、今こそ、支え合う力・絆を育むことが大切であり、福祉分野から多様な社会資源と連携・協働するシステムづくりを行なうことが必要であると考えた。

3-2. 「Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト」の目的

高齢者や障がい者等が単に福祉サービスを受けるだけでなく、地域の「支え手」として主体的に活動できるよう、旧山田村・旧八尾町の枠組みを超えて、「地域で助け合い、支え合う絆を育む」ことを目的とした。

具体的には、以下の3つの事業を実施することであった。

- 1) 山田（Y）・八尾（Y）地域の福祉施設や地域づくり団体等の新たな地域連携を強固にするためのネットワーク「Y・Yネットふるさと創造会議」の構築
- 2) バランスのとれた食事を調理することが困難と思われる高齢者等への「配食サービス等実験提供事業」の実施
- 3) 人的・物的・文化的な社会資源の確保のために、団塊の世代等を対象にボランティアを育成し、耕作放棄地等を復元する等の就労支援を行い、新たな特産品を開発していくという「耕作放棄地復元活用システム」の構築

4. 「Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト」事業全体スケジュール

平成23年7月から計8か月間にわたって、①Y・Yネットふらさと創造会議、②配食サービス等実験提供事業、③耕作放棄地復元活用システム構築事業を行った（表1参照）。

表1 Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト事業全体スケジュール表

	平成23年7月	8月	9月	10月
事業実施内容	<p>第1回Y・Yネットふらさと創造会議</p> <p>山田地域③ 八尾ゆめの森収穫祭 事業化に向けた「わかくさランチ」の視察</p> <p>アンケートの実施</p>	<p>第2回Y・Yネットふらさと創造会議</p> <p>弁当試食会</p>	<p>第3回Y・Yネットふらさと創造会議</p> <p>山田地域① 八尾地域①</p>	<p>第4回Y・Yネットふらさと創造会議</p> <p>山田地域②・八尾地域②</p>
	11月	12月	平成24年1月	2月
事業実施内容	<p>「耕作放棄地復元活用システム構築事業」</p> <p>「配食サービス等実験提供事業」</p> <p>第5回Y・Yネットふらさと創造会議</p> <p>山田地域④ 山田地域⑤・八尾地域③</p> <p>配食サービスの販売実験（山田地域）</p> <p>報告書の作成（～3月）</p> <p>第6回Y・Yネットふらさと創造会議</p> <p>「耕作放棄地復元活用システム構築事業」</p>			

5. 「Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト」実施と成果の概要

5-1. 「Y・Yネットふるさと創造会議」の設置と開催概要

設置概要	<p>①高齢者などが地域で普通に暮らすこと、②高齢者・障がい者の就労を支援すること、③福祉ボランティア活動を推進すること、を基本的な柱として、山田・八尾地域の福祉施設や地域づくり団体等が、地域や分野・職種を越えて主体的に参加し新たなネットワークを構築した。</p>																																										
委員構成	<p>1) 委員 (11名)</p> <table border="0"> <tr> <td>① 富山市八尾山田商工会</td> <td>事務局長</td> <td>勝原 隆彦 氏</td> </tr> <tr> <td>② 山田地域社会福祉協議会</td> <td>会 長</td> <td>坂口 清志 氏</td> </tr> <tr> <td>③ 越中八尾ふるさとづくり協議会</td> <td>会 長</td> <td>岩倉 伸一 氏</td> </tr> <tr> <td>④ 越中八尾ふるさとづくり協議会</td> <td>副 会 長</td> <td>長谷川 由美 氏</td> </tr> <tr> <td>⑤ NPO 法人愛和報恩会</td> <td>理 事 長</td> <td>吉田 勇次郎 氏</td> </tr> <tr> <td>⑥ 富山県がうん天蚕会</td> <td>代 表</td> <td>友咲 貴代美 氏</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>副 代 表</td> <td>酒井 紀夫 氏</td> </tr> <tr> <td>⑧ 富山国際大学こども育成学部</td> <td>専任講師</td> <td>村上 満 氏</td> </tr> <tr> <td>⑨ 社会福祉法人恵風会あざみ園</td> <td>園 長</td> <td>堀岡 浩</td> </tr> <tr> <td>⑩ 社会福祉法人恵風会あざみ園</td> <td>支援課課長代理</td> <td>川村 国子</td> </tr> </table> <p>2) 幹事 (2名)</p> <table border="0"> <tr> <td>① 富山市山田総合行政センター市民福祉課</td> <td>課 長</td> <td>谷口 弥一郎 氏</td> </tr> <tr> <td>② 富山市八尾山田商工会</td> <td>専門相談員</td> <td>竹原 理史 氏</td> </tr> <tr> <td>事務局：あざみ園管理課</td> <td>課 長</td> <td>窪野 達章 (助成事業担当)</td> </tr> <tr> <td>あざみ園支援課</td> <td></td> <td>福田 亨 (会計総括)</td> </tr> </table> <p>山崎吉史・藤田稔二・中寺由馨・北滝めぐみ・大森理絵</p>	① 富山市八尾山田商工会	事務局長	勝原 隆彦 氏	② 山田地域社会福祉協議会	会 長	坂口 清志 氏	③ 越中八尾ふるさとづくり協議会	会 長	岩倉 伸一 氏	④ 越中八尾ふるさとづくり協議会	副 会 長	長谷川 由美 氏	⑤ NPO 法人愛和報恩会	理 事 長	吉田 勇次郎 氏	⑥ 富山県がうん天蚕会	代 表	友咲 貴代美 氏	⑦	副 代 表	酒井 紀夫 氏	⑧ 富山国際大学こども育成学部	専任講師	村上 満 氏	⑨ 社会福祉法人恵風会あざみ園	園 長	堀岡 浩	⑩ 社会福祉法人恵風会あざみ園	支援課課長代理	川村 国子	① 富山市山田総合行政センター市民福祉課	課 長	谷口 弥一郎 氏	② 富山市八尾山田商工会	専門相談員	竹原 理史 氏	事務局：あざみ園管理課	課 長	窪野 達章 (助成事業担当)	あざみ園支援課		福田 亨 (会計総括)
① 富山市八尾山田商工会	事務局長	勝原 隆彦 氏																																									
② 山田地域社会福祉協議会	会 長	坂口 清志 氏																																									
③ 越中八尾ふるさとづくり協議会	会 長	岩倉 伸一 氏																																									
④ 越中八尾ふるさとづくり協議会	副 会 長	長谷川 由美 氏																																									
⑤ NPO 法人愛和報恩会	理 事 長	吉田 勇次郎 氏																																									
⑥ 富山県がうん天蚕会	代 表	友咲 貴代美 氏																																									
⑦	副 代 表	酒井 紀夫 氏																																									
⑧ 富山国際大学こども育成学部	専任講師	村上 満 氏																																									
⑨ 社会福祉法人恵風会あざみ園	園 長	堀岡 浩																																									
⑩ 社会福祉法人恵風会あざみ園	支援課課長代理	川村 国子																																									
① 富山市山田総合行政センター市民福祉課	課 長	谷口 弥一郎 氏																																									
② 富山市八尾山田商工会	専門相談員	竹原 理史 氏																																									
事務局：あざみ園管理課	課 長	窪野 達章 (助成事業担当)																																									
あざみ園支援課		福田 亨 (会計総括)																																									
開催結果 (計5回)	<table border="0"> <tr> <td>設 立</td> <td>平成23年 7月27日 (水) 19時30分～</td> <td>於) あざみ園会議室</td> </tr> <tr> <td>第1回</td> <td>平成23年 8月24日 (水) 19時30分～</td> <td>於) あざみ園会議室</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>平成23年 9月28日 (水) 19時30分～</td> <td>於) あざみ園会議室</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>平成23年10月26日 (水) 19時30分～</td> <td>於) あざみ園会議室</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>平成24年 1月25日 (水) 19時30分～</td> <td>於) あざみ園会議室</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>平成24年 2月22日 (水) 19時30分～</td> <td>於) あざみ園会議室</td> </tr> </table>	設 立	平成23年 7月27日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室	第1回	平成23年 8月24日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室	第2回	平成23年 9月28日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室	第3回	平成23年10月26日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室	第4回	平成24年 1月25日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室	第5回	平成24年 2月22日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室																								
設 立	平成23年 7月27日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室																																									
第1回	平成23年 8月24日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室																																									
第2回	平成23年 9月28日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室																																									
第3回	平成23年10月26日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室																																									
第4回	平成24年 1月25日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室																																									
第5回	平成24年 2月22日 (水) 19時30分～	於) あざみ園会議室																																									
会議内容	<p>第1回： 配食サービス等実験提供事業の実施について</p> <p>第2回： 耕作放棄地復元活用システムについて</p> <p>第3回： 耕作放棄地復元活用システム及び報告会の開催について</p> <p>第4回： 配食サービス等実験提供事業のアンケートについて</p> <p>第5回： 事業の完了及び報告書の作成について</p>																																										

5-1-1. 「Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト」役割分担表

本事業における役割については、表2のとおり、「Y・Yネットワークふるさと創造会議」の構成団体がそれぞれ分担し、円滑な遂行にあたった。

表2 「Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト」役割分担表

Y・Yネットワークふるさと創造会議 構成団体名	役割分担及び概要	構成団体が主体的に取り組んだ具体的な事業内容
富山市八尾山田商工会	①耕作放棄地復元活用システム構築事業及び配食サービス等実験提供事業における企画調整 ②八尾・山田地域で実施される食と地域の交流促進対策交付金事業及び全国展開支援事業等との連絡調整	買物支援等の地域福祉サービスに関連するソーシャルビジネスに関する助言・提言等を担当した。 長寿の村と言われる山田地域に口伝えに作られてきた柿酢を毎日の食卓で使いやすく開発された「山田村の柿酢シリーズ」と山田地域の食材等を活用し調理した「山田の晴れの日弁当」の企画への助言等を担当した。
山田地域社会福祉協議会	①配食サービス等の実験提供事業における山田地域の高齢者の把握及び配布方法の検討・調整・実施等	八尾北・山田包括支援センターとの連携の下で山田地域の高齢者などの孤立を防止するためのアンケート調査などへの協力及び「山田の晴れの日弁当」の共同開発及びその配布等を担当した。
越中八尾ふるさとづくり協議会	①耕作放棄地復元活用システム構築事業及び配食サービス等実験提供事業における八尾地域での実施体制の確立	越中八尾ふるさとづくり協議会の構成団体であるNPO法人アイフィール・フアインがボランティアを募集し、復元する八尾町卯花地区桐谷集落の耕作放棄田で栽培する主作物の提案及びその実施協力等を担当した。 同じく構成団体のNPO法人愛和報恩会が八尾町野積地区西川倉集落の耕作放棄田等で栽培する主作物の提案及び八尾地域での配食サービス等実験提供事業に伴い開発する「八尾の晴れの日弁当」の開発協力等を担当した。
特定非営利活動（NPO）法人 愛和報恩会	①耕作放棄地復元活用システム構築事業における耕作放棄地の確保等 ②配食サービス等実験提供事業の「晴れの日弁当」の開発等	八尾町野積地区西川倉集落の高齢者及びボランティアを募集して実施する耕作放棄地復元活用システム構築事業の実施協力等を担当した。 越中八尾ふるさとづくり協議会の構成団体である黒瀬谷交流センター運営委員会が作る「金時おこわ」や同じく構成団体である農事組合法人八尾農林産物加工組合が運営する「ゆめの森味工房」で販売する山菜等、八尾地域の食材や特産品を活用し、八尾町伝統の郷土料理や蚕や和紙等の伝統工芸をイメージした「八尾の晴れの日弁当」の開発協力等を担当した。
富山県がうん天蚕の会	①耕作放棄地復元活用システム構築事業等における講師の招請及びボランティアの募集等	あざみ園敷地内の耕作放棄地の復元活用に関する助言等を担当した。 山田・八尾地域で実施される耕作放棄地復元活用システム構築事業の実施に関する視察研修の提案及び実施協力等を担当した。 あざみ園等が実施する就労支援事業への協力等を担当した。

5-2. 「配食サービス等実験提供事業」の実施概要

<p>事業の概要</p>	<p>高齢者の孤立防止を図ることを目的として、①地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の協力を得て、弁当を提供できる高齢者（山田地域 10 人・八尾地域 10 人）を選定してもらい、②郷土料理の専門家等の意見を取り入れて、地元の食材を使った祭礼・誕生日・記念日等の「山田・八尾の晴れの日」用の弁当を開発し、③配食サービス等を受けた高齢者へのサービスの有効性・採算性を検証した。</p>																					
<p>実施構成 団体 (4 団体)</p>	<p>① 八尾ふるさとづくり協議会 ② NPO 法人愛和報恩会 ③ 山田地域社会福祉協議会 ④ 社会福祉法人恵風会 あざみ園</p> <p>事務局 富山市八尾山田商工会 あざみ園 支援課主任 社会福祉士 北 滝 めぐみ あざみ園 管理課 管理栄養士 中 寺 由 馨 (会計)</p>																					
<p>実験実施日</p>	<p>第 1 回 平成 23 年 9 月 14 日 (水) 昼食 (山田の郷土料理①) 第 2 回 平成 23 年 9 月 30 日 (金) 昼食 (八尾の郷土料理①：野積地区) 第 3 回 平成 23 年 10 月 5 日 (水) 昼食 (山田の郷土料理②) 第 4 回 平成 23 年 10 月 26 日 (水) 昼食 (八尾の郷土料理②：卯花地区) 第 5 回 平成 23 年 11 月 2 日 (水) 昼食 (山田の郷土料理③) 第 6 回 平成 23 年 11 月 23 日 (水) 昼食 (ゆめの森収穫祭：アンケート) 第 7 回 平成 23 年 12 月 21 日 (水) 昼食 (山田の郷土料理④) *平成 23 年 12 月 8, 15, 22 日 (木) 配食サービス等の販売実験：アンケート 第 8 回 平成 24 年 1 月 11 日 (月) 昼食 (山田の郷土料理⑤) 第 9 回 平成 24 年 1 月 20 日 (水) 昼食 (八尾の郷土料理③：室牧地区)</p>																					
<p>助言者 (7 名)</p>	<table border="0"> <tr> <td>① 八尾北・山田包括支援センター</td> <td>管理者</td> <td>亀井 健人 氏</td> </tr> <tr> <td>② 八尾南包括支援センター</td> <td>管理者</td> <td>江上 昌子 氏</td> </tr> <tr> <td>③ 北陸メディカルサービス(株)八尾営業所</td> <td>訪問介護管理者</td> <td>中山 信子 氏</td> </tr> <tr> <td>④ 富山国際大学こども育成学部</td> <td>専任講師</td> <td>村上 満 氏</td> </tr> <tr> <td>⑤ 曹洞宗富山宗務所 (観音寺住職)</td> <td>人権擁護推進主事</td> <td>今里 道真 氏</td> </tr> <tr> <td>⑥ 八尾農林産物加工組合</td> <td>組合長</td> <td>大野 克子 氏</td> </tr> <tr> <td>⑦ 料理教室「キャロット」</td> <td>主宰</td> <td>青山 暁美氏 (管理栄養士)</td> </tr> </table>	① 八尾北・山田包括支援センター	管理者	亀井 健人 氏	② 八尾南包括支援センター	管理者	江上 昌子 氏	③ 北陸メディカルサービス(株)八尾営業所	訪問介護管理者	中山 信子 氏	④ 富山国際大学こども育成学部	専任講師	村上 満 氏	⑤ 曹洞宗富山宗務所 (観音寺住職)	人権擁護推進主事	今里 道真 氏	⑥ 八尾農林産物加工組合	組合長	大野 克子 氏	⑦ 料理教室「キャロット」	主宰	青山 暁美氏 (管理栄養士)
① 八尾北・山田包括支援センター	管理者	亀井 健人 氏																				
② 八尾南包括支援センター	管理者	江上 昌子 氏																				
③ 北陸メディカルサービス(株)八尾営業所	訪問介護管理者	中山 信子 氏																				
④ 富山国際大学こども育成学部	専任講師	村上 満 氏																				
⑤ 曹洞宗富山宗務所 (観音寺住職)	人権擁護推進主事	今里 道真 氏																				
⑥ 八尾農林産物加工組合	組合長	大野 克子 氏																				
⑦ 料理教室「キャロット」	主宰	青山 暁美氏 (管理栄養士)																				
<p>試食会</p>	<p>開催日：平成 23 年 11 月 23 日 (水・祝) 会場等：「八尾ゆめの森」収穫祭</p>																					

5-2-1. 「配食サービス等実験提供事業」活動報告

1) 事業実施地域の現状と事業内容

障害者自立支援法により、施設福祉から在宅福祉へと重点が移る中、障がい者等が住み慣れた地域において自立し、積極的に社会参加ができるような地域格差のない福祉サービスの提供が必要となっている。また、富山県における中山間集落では高齢化が進み、一人暮らしなど生活に不安を感じている高齢者等が多い現状にある。

そこで、あざみ園では、山田・八尾地域周辺の社会福祉施設や農商工等の多様な主体の参加と連携のもと、高齢者への配食サービス等の実験提供事業を実施した。さらに、地域福祉サービスの実施体制の検討及びその採算性等を検証した。

2) 事業実施構成団体および連携協力団体

山田地域社会福祉協議会 民生委員 八尾地域日赤奉仕団 山田地区商工会
山田村東部地区総代 富山国際大学村上研究室・学生 料理教室「キャロット」
NPO 法人 愛和報恩会 NPO 法人 アイ・フィール・ファイン
わかくさランチ(視察先) 北陸電力(研修協力)

3) 「配食サービス等実験提供事業」の対象者の選定

山田地域社会福祉協議会による配食サービスは、年 10 回実施しており、通常は 19 名の一人暮らし高齢者に弁当を届けている(山田地域には現在 32 名の独居高齢者が生活し、このうち毎日の配食を希望される方は 10 名程度) ことを受け、本事業の実施にあたって、改めてニーズを把握するためアンケート調査を行った。

そして、このアンケートをもとに、山田総合行政センター、山田地域社会福祉協議会、民生委員の協力を得ながら対象者を選定した。

4) 事業実施スケジュール

回	日 時	内 容	開発・調理担当	配食数
第 1 回	平成 23 年 8 月 24 日	Y・Y ネットふるさと創造会議 における試食会	あざみ園管理栄養士	15
第 2 回	平成 23 年 9 月 14 日	山田地域での配食①	あざみ園管理栄養士 あざみ園職員 富山国際大学学生	9
第 3 回	平成 23 年 9 月 30 日	八尾地域での配食① 野積地区	NPO 法人 愛和報恩会 日赤奉仕団	19
第 4 回	平成 23 年 10 月 5 日	山田地域での配食②	あざみ園管理栄養士 日赤奉仕団・あざみ園職員	11
第 5 回	平成 23 年 10 月 26 日	八尾地域での配食② 卯花地区	NPO 法人 アイフィール ファイン	23

第6回	平成23年11月2日	山田地域での配食③	あざみ園管理栄養士 あざみ園職員	11
第7回	平成23年11月15日	わかくさランチ見学 (事業化に向けての視察)	あざみ園管理栄養士 あざみ園職員	3
第8回	平成23年11月23日	ゆめの森収穫祭での試食会 *アンケート調査	あざみ園管理栄養士 あざみ園職員 富山国際大学学生	52
第9回	平成23年12月21日	山田地域での配食④	料理教室キャロット あざみ園職員 山田地区商工会	6
第10回 第11回 第12回	平成23年12月8日・ 15日 22日	山田地域での配食実験 *アンケート調査	あざみ園管理栄養士 NPO法人 愛和報恩会	9 5 5
第13回	平成24年1月11日	山田地域での配食⑤	あざみ園管理栄養士 あざみ園職員	11
第14回	平成24年1月20日	八尾地域での配食③ 室牧地区	NPO法人 アイフィー ルフライン	25
第15回	平成24年1月26日	新調理システムセミナー(研修) 北陸電力ショールームエルフプラザ富山	あざみ園管理栄養士 あざみ園職員	2



図3 「山田の晴れの日」弁当



図4 山田地域での配食とアンケート説明の様子(9/14)



図5 「八尾の晴れの日」弁当(室牧地区)



図6 「山田の晴れの日弁当」製作風景(10/5)

5) 山田・八尾の「晴れの日弁当」製作および配食について

山田の「晴れの日弁当」の製作については、地元の食材を使った郷土料理や、地元の特産物を使用した新作の料理など、料理の専門家等の意見を取り入れながら、あざみ園の管理栄養士が中心となって開発を行った。また、調理については、当園の栄養士の指導を受け、日赤奉仕団をはじめ各回毎に様々な団体と協働で行った(図6参照)。

山田全域を対象に行った全5回の配食サービスでは、毎回お弁当の食材にちなんだ絵手紙風の帯をかけ、温かみのあるお弁当を目指した。また、あざみ園らしさを出すために、食品加工班の手作りパンも朝食・間食用として一緒に添えて届けた。

八尾地域(野積地区・卯花地区・室牧地区)については、NPO法人 愛和報恩会やNPO法人 アイ・フィール・ファインが中心となって地元産食材を使ったお弁当会を企画しながら実施した。

その際、地元の高齢者でつくる「からおけ会」等、地域のサークル活動等の行事とセットで、歌を歌う等、より楽しく過ごせるように配慮した(図7参照)。



図7 八尾の晴れの日お弁当会の様子

6) アンケートの実施について

山田地域における配食については、民生委員の協力のもと、高齢者宅1軒1軒配達を行った。その際、孤立防止を図るための買い物支援・見守り等について、その実施の可能性を検証するため、アンケートを配布し、説明を行った(図4参照)。

そのほか、弁当の配食だけでなく、容器も回収しようと、一日に2度訪問した。このことは、早く顔なじみの関係性を築いて、アンケート等もスムーズに行えるようにとの思いからのことであった。回数を重ねる毎に親しみを感じてくださる方も多く、笑顔で迎えてもらえると喜びや、やりがいを感じる事ができた。

なお、八尾地域の卯花地区をはじめ室牧地区は、前述のとおり行事に合わせて会食し、その際アンケートを実施した。

7) アンケートの結果(概要)について

今後、山田地域での事業化を第一に見据えて、アンケート調査を行ったものを本報告書に掲載した(図8~16参照)。結果としては、「配食サービスは便利だとは思いますが、今は必要とは思わない」といった人が多く、すぐに事業化に結びつけられるだけのニーズは、どの年代においても見られなかった。

しかし、本事業を実施することにより、あざみ園周辺の山田地域の高齢者の現状や地域の特性等を把握できる一つのきっかけとなったと思われた。今後は八尾地域での実施のように、行事等に合わせたサービス等を改めて検討することとした。

あざみ園周辺地域でのアンケート結果（詳細）

- 対象者：山田地域 50 世帯に配布
- 配布日：平成 23 年 11 月 14 日
- 回収日：平成 23 年 11 月 29 日
- 回収方法：自記式・家庭訪問時に回収（35 世帯回収：回収率 70%）

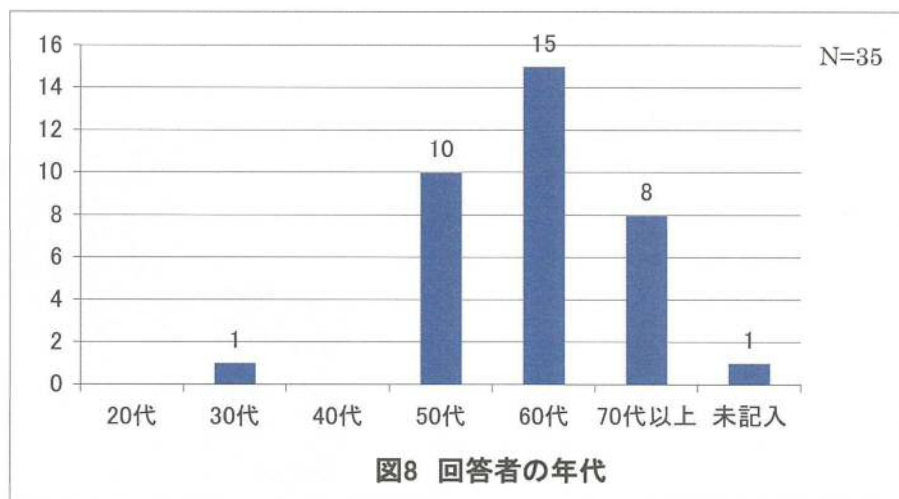


図8のとおり、回答者（35名）を年代別にみると、60代が最も多く、15名（42.9%）であった。次いで50代の10名（28.6%）、70代以上の8名（22.9%）、30代の1名であった。

回答者の家族構成については、15名（42.9%）で二世帯が最も多く、次いで、三世帯以上、その他の世帯が9名（25.7%）、夫婦のみの世帯が8名（22.8%）、一人暮らし世帯は1名であった。特に、60代、50代での二世帯が多く、70代以上は三世帯以上という回答であった。

1. 昼食には普段何を食べているか（複数回答あり）

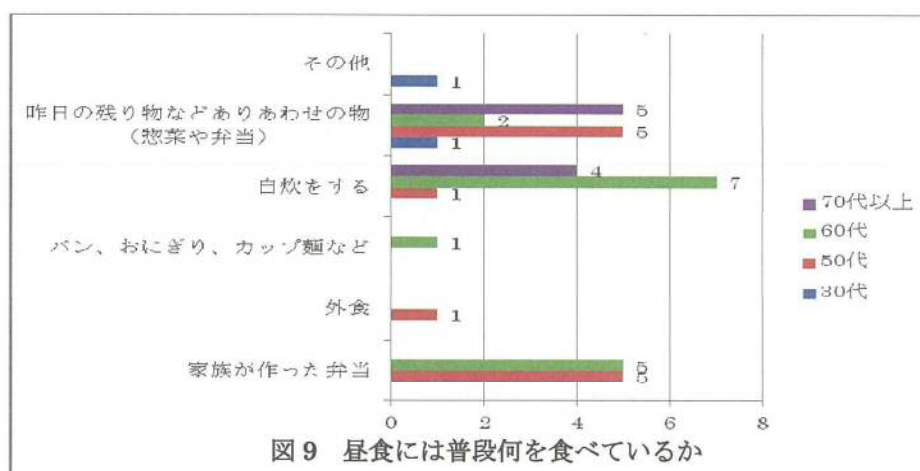


図9のとおり、『昼食には普段何を食べているか』という問いに対し、「昨日の残り物などありあわせの物」と回答した人が最も多く、13名であった。次いで「自炊をする」が12名、「家族が作った弁当」が10名、「パン、おにぎり、カップ麺などの軽食」、「外食」、「その他」が1名であった。「その他」と回答した人は、職場の食堂と答えた。

年代別でみると、70代以上、60代、50代ともに「昨日の残り物などありあわせの物」「自炊をする」が多く、60代、50代は、「家族が作った弁当」という回答が多かった。

2. 弁当を利用するのはどのようなときか（複数回答あり）

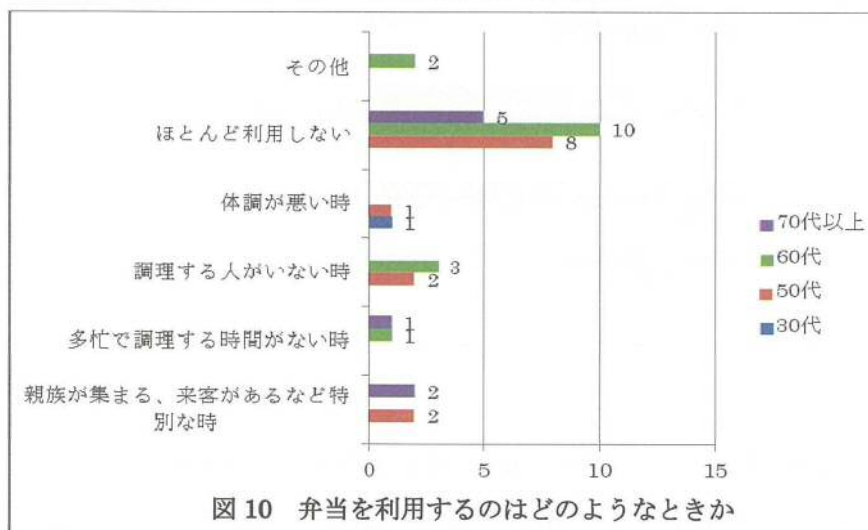


図10のとおり、『弁当を利用するのはどのようなときか』という問いに対し、「ほとんど利用しない」と回答した人が最も多く、23名であった。次いで「調理してくれる人がいない時」が5名、「親族が集まる、来客があるなど特別な時」が4名、「多忙で調理する時間がない時」「体調が悪い時」が2名、「その他」が1名であった。「その他」と回答した人は、「好き嫌いがあるので、たまに利用する」であった。年代別にみても、「ほとんど利用しない」と回答した人が最も多かった。

3. 弁当を自宅や職場まで配達するサービスについてどう思うか

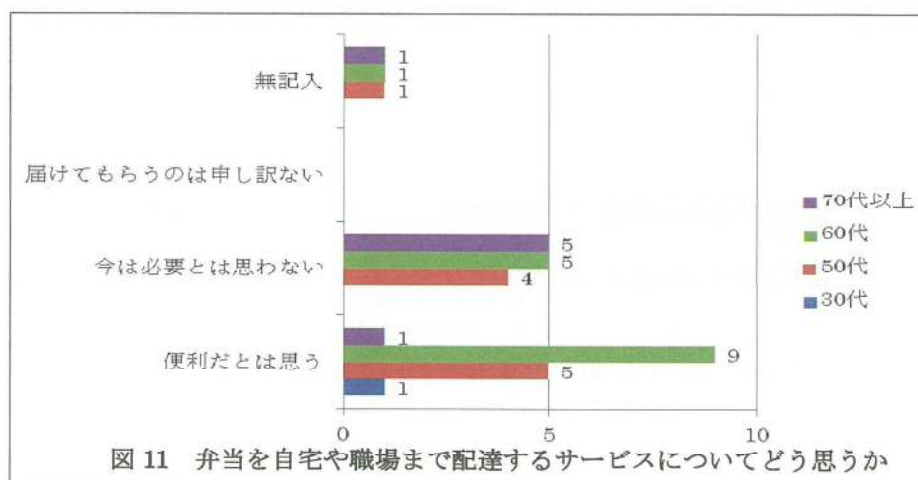


図 11 のとおり、『弁当を自宅や職場まで配達するサービスについてどう思うか』という問いに対し、「便利だと思う」と回答した人が最も多く、16名、次いで「今は必要とは思わない」が14名であった。年代別にみると、70代以上は、「今は必要とは思わない」という回答が多かったことに対し、60代は「便利だと思う」という回答が多かった。なお、「届けてもらうのは申し訳ない」と回答した人はいなかった。

4. 配食弁当を利用する場合、頻度はどのくらいを希望するか（複数回答あり）

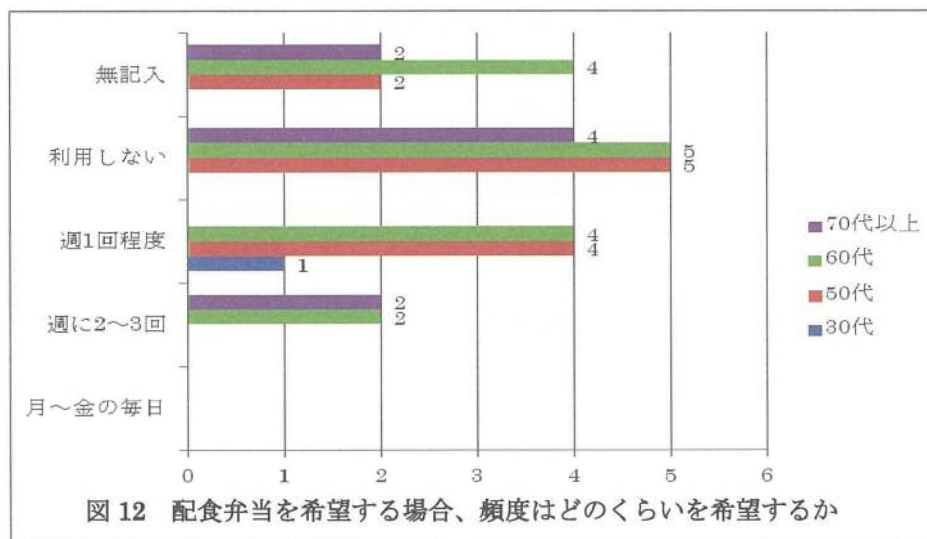


図 12 のとおり、『配食弁当を利用する場合、頻度はどのくらいを希望するか』という問いに対し、「利用しない」と回答した方が最も多く、14名であった。次いで「週1回程度」が9名、「週に2~3回」が4名であった。年代別にみると、どの年代も「利用しない」と回答した方が多いことが明らかとなった。一方で、少数ではあるが、「週に2~3回程度」と回答している人もいた。

5. 弁当の金額はどの程度であれば利用するか（複数回答あり）

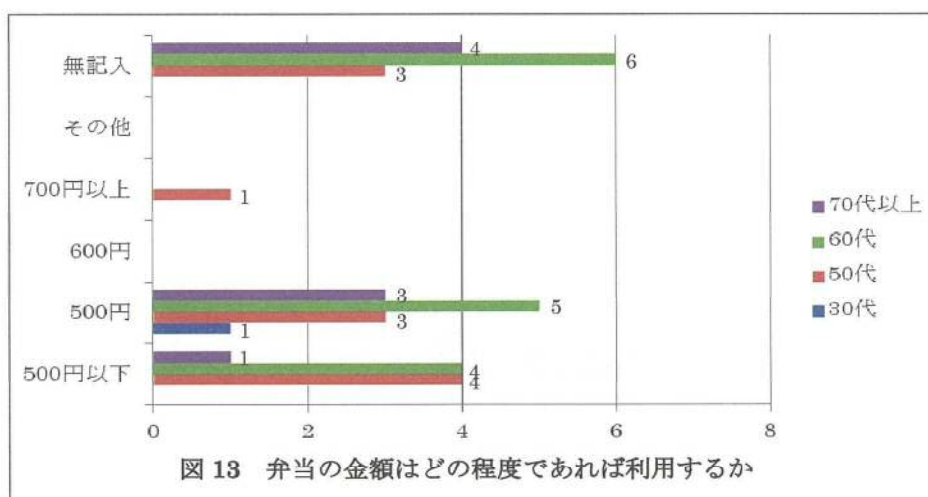


図13のとおり、『弁当の金額はどの程度であれば利用するか』という問いに対し、「500円」と回答した方が最も多く、12名であった。次いで「500円以下」が9名、「700円」が1名であった。

6. 弁当の内容はどのようなものがよいか（複数回答あり）

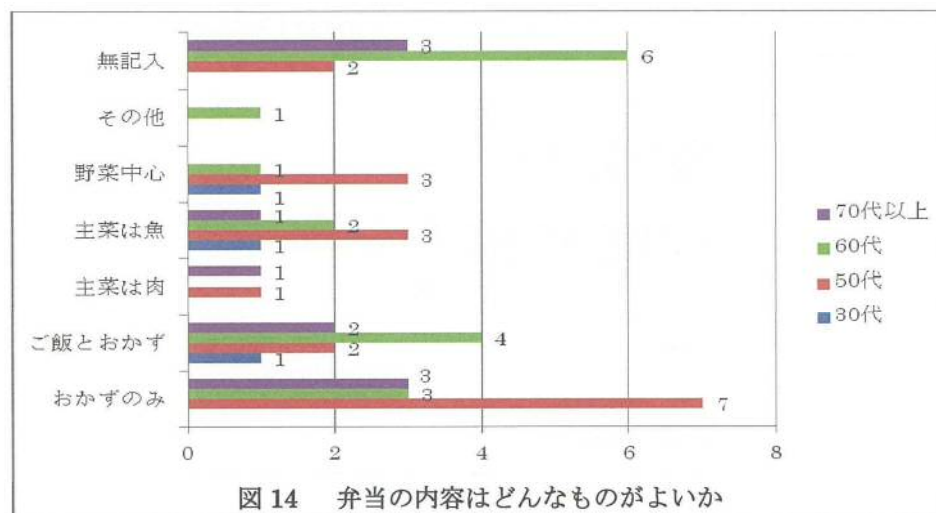


図14のとおり、『弁当の内容はどのようなものがよいか』という問いに対し、「おかずのみ」と回答した人が最も多く、13名であった。次いで「ご飯とおかず」の9名、「主菜は魚」が7名、「野菜中心」が5名、「主菜は肉」が2名、「その他」が1名であった。「その他」には、「主菜は肉・魚半分ずつがよい」という回答があった。

年代的にみると、50代は「おかずのみ」、60代が「ご飯とおかず」と回答している人が多かった。

7. 昼食の弁当は何時までに配達して欲しいか

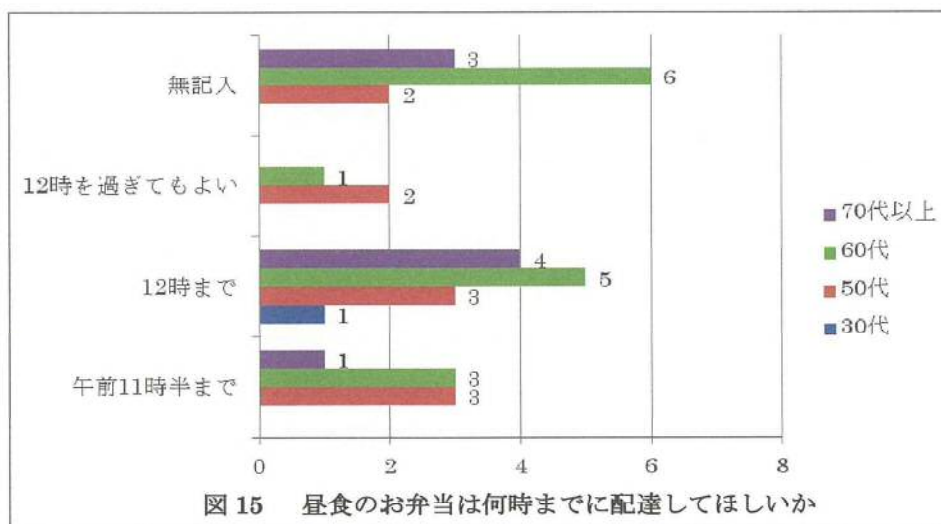


図 15 のとおり、『昼食の弁当は何時までに配達してほしいか』という問いに対し、「12時まで」と回答した人が最も多く、13名であった。次いで、「午前11時まで」が7名、「12時を過ぎててもよい」が3名であった。年代別にみても、「12時まで」と回答している人が多いことが分かった。

8. 昼食の弁当だけではなく、おやつや朝食用として当園の手作りパンの配達があったら利用するか（複数回答あり）

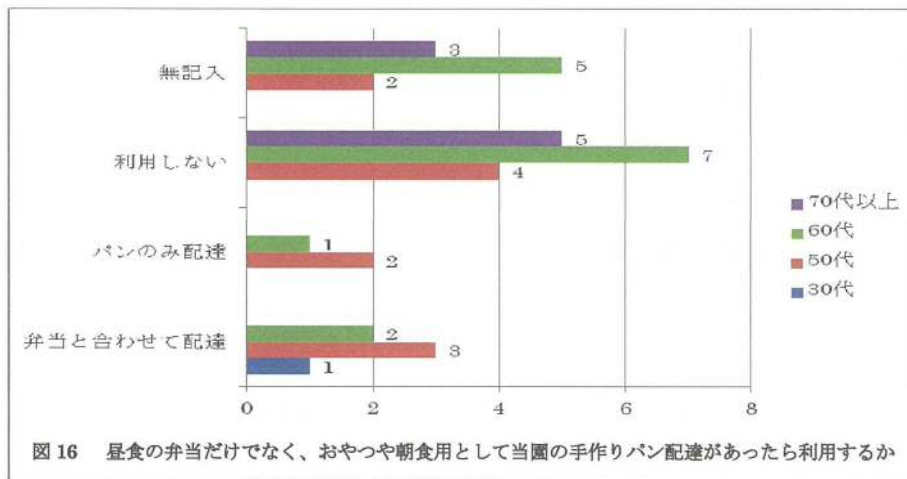


図 16 のとおり、『昼食の弁当だけでなく、おやつや朝食用として当園の手作りパンの配達があったら利用するか』という問いに対し、「利用しない」と回答した人が最も多く、16名であった。次いで、「弁当とあわせて配達」が6名、「パンのみ配達」が3名であった。年代別にみても「利用しない」が最も多く、70代に関しては、すべての人が「利用しない」と回答した。

7) アンケートの考察

今回試験的に実施した地域は、高齢者が極めて多く、世帯人数も少なく、当園にとっても新たなサービスの展開が可能な地域であると思われたが、実際には「利用しない」という回答が最も多かったことから、検討を要する結果となった。その背景には、富山の“勤勉”や“儉約”という県民性が強くあらわれているように思われた。具体的には、「昨日の残り物等の活用」や「自炊」が多かったことから、つつましい生活の中にも、たくましく毎日を着実に送っている様子を伺うことができたと思われる。また、無記入が多いことにも着目すると、あざみ園周辺地域の住民は、自立意識も高く、質問に答えるまでもないといった力強い姿勢もあったのではないだろうか。

したがって、便利だとは思うものの、自炊等ができる健康状態にある元気高齢者の多い地域であることが分かった。今後は、配食の機会や配食エリアを再考しながら、改めて地域との関わりを検討していく必要があると思われた。アンケートの配布も50世帯と少なかったことから、この結果が山田の地域性をすべて示しているとも言い難く、対象地域や対象年齢等の条件も見直しながら、よい多くの回答を得ていく工夫を検討していきたい。

8) 事業化に向けての検討

日常的に弁当の配食サービス等を利用しようという意識はあまりなく、パンへの嗜好もそれほど高くない、という現時点での結果は、事業化を後押ししてくれるものではなかった。しかしながら、今回の調査は、本事業の進め方を再検討し、よりニーズの掘り起こしを行っていくための一つのよいきっかけづくりにつながったと思われる。

また、今回の配食サービス等では、往復 25 km という遠いエリアもあったことから、「お弁当屋さん」を開設するための立地条件としては、極めて採算が取りにくく、条件が整った地域とは言い難いという問題も見えてきた。

今後は、①配食サービス等を地域に浸透させ、収益を上げながら、事業を継続できるか、②高齢者の孤立防止であれば、配食サービス等にこだわらない別の新たな事業の展開も視野に入れて検討してもよいのではないか、といった課題について検討する必要がある。そして、これらの課題を克服していくためにも、B 型事業所としてお弁当屋さんを運営している県内外の他事業所の視察や新調理システムの研修等、さらに学びを深めていきたいと考えている。

9) 総評・まとめ

本事業を開始するにあたっては、「毎日の配食等を望む」、「孤立しかねない高齢者が生活している」という地域からの声きっかけであった。実際に、山田地域で行った 3 回の有料配食実験（平成 23 年 12 月 8 日・15 日・22 日）時において、毎回注文して下さった方からは、「来年度以降も、ぜひこのようなサービスを続けてほしい。」との声も聞かれた。



図 17 販売実験弁当 (12/8)



図 18 販売実験弁当 (12/15)



図 19 販売実験弁当 (12/22)

すべての人にとって、今すぐには必要なサービスではないものの、近い将来確実に必要なサービスになることは十分予想される。したがって、いつでも開始できる体制づくりを常に意識しておくためにも、高齢者の行事等を活用しながら、会食形式での注文配食サービスといった活動から着実に開始していくことが、本事業を持続可能な活動にしていくためには、大切な一歩なのかもしれない。

またその際、「買ってでもいいかな。」と思わせるような価格設定や献立の内容、味つけをはじめ、「おかずだけでもいい。」といった細かなサービスにも対応できるか等、ニーズをしっかりと掘り起こせる場にもつなげていくことが大切であるとした。

これらのことを十二分に踏まえながら、平成 24 年度以降の事業計画をしっかりと立てていきたいと考える。

5-3. 「耕作放棄地復元活用システム構築事業」の実施概要

<p>事業の概要</p>	<p>①自治振興会等の協力を得て、耕作放棄地約 5,000 m²を借り受け、②実施構成団体を通じて、開墾ボランティアを募集、③耕作放棄地を畑地に復元し、天蚕（クヌギ）・楮・山野草・コケ・そば・薬草等を栽培し、④就労や収益が見込める地域資源に転換するシステムを構築した。また、収益性のある作物については、専門家等の意見や社会的なニーズから選定し、定植した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：平成 23 年 8 月～12 月 ・実施場所：山田地域 1 箇所 2,400 m² および 八尾地域 2 箇所 2,770 m² ・対象者：実施構成団体の役職員及び開墾ボランティア約 70 名 ・広報活動：東北地方の復旧・復興を願うソーシャルアート展（10/8～10/10） 																					
<p>実施構成団体 (4 団体)</p>	<p>① 八尾ふるさとづくり協議会（NPO 法人アイ・フィール・ファイン） ② NPO 法人 愛和報恩会 ③ 富山県がうん天蚕会 ④ 社会福祉法人恵風会 あざみ園</p> <p>事務局 富山市八尾山田商工会 あざみ園 支援課 主任 藤田 稔二 あざみ園 支援員 福田 亨（会計）</p>																					
<p>助言者 (7 名)</p>	<table border="0"> <tr> <td>① ぶなの森</td> <td>代 表</td> <td>高峰 博保 氏</td> </tr> <tr> <td>② 布谷宮農組合</td> <td>組 合 長</td> <td>岩 倉 伸 一 氏</td> </tr> <tr> <td>③ 大長谷村づくり協議会</td> <td>会 長</td> <td>村 上 光 進 氏</td> </tr> <tr> <td>④ ㈱エコロの森</td> <td>代 表</td> <td>森 田 由 樹 子 氏</td> </tr> <tr> <td>⑤ 富山国際大学こども育成学部</td> <td>専任講師</td> <td>村 上 満 氏</td> </tr> <tr> <td>⑥ 曹洞宗富山宗務所（観音寺住職）</td> <td>人権擁護推進主事</td> <td>今 里 道 真 氏</td> </tr> <tr> <td>⑦ AGRI ひばり</td> <td>代 表</td> <td>長 谷 川 充 氏</td> </tr> </table>	① ぶなの森	代 表	高峰 博保 氏	② 布谷宮農組合	組 合 長	岩 倉 伸 一 氏	③ 大長谷村づくり協議会	会 長	村 上 光 進 氏	④ ㈱エコロの森	代 表	森 田 由 樹 子 氏	⑤ 富山国際大学こども育成学部	専任講師	村 上 満 氏	⑥ 曹洞宗富山宗務所（観音寺住職）	人権擁護推進主事	今 里 道 真 氏	⑦ AGRI ひばり	代 表	長 谷 川 充 氏
① ぶなの森	代 表	高峰 博保 氏																				
② 布谷宮農組合	組 合 長	岩 倉 伸 一 氏																				
③ 大長谷村づくり協議会	会 長	村 上 光 進 氏																				
④ ㈱エコロの森	代 表	森 田 由 樹 子 氏																				
⑤ 富山国際大学こども育成学部	専任講師	村 上 満 氏																				
⑥ 曹洞宗富山宗務所（観音寺住職）	人権擁護推進主事	今 里 道 真 氏																				
⑦ AGRI ひばり	代 表	長 谷 川 充 氏																				

5-3-1. 「耕作放棄地復元活用システム構築事業」活動報告

1) 事業実施地域の現状と事業内容

地力不足や水源が確保できないために、農作物等の栽培には適さないとして、耕作をあきらめて長年放置している畑地（あざみ園敷地・八尾桐谷地区）を復元した。

2) 事業実施構成団体および連携協力団体

富山県がうん天蚕の会 社会福祉法人フォーレスト八尾会 JA 山田農協
 とやまの森づくりサポートセンター 若林工業
 視察先：社会福祉法人 アルプス学園 長野県安曇野市天蚕振興会天蚕センター

3) 「耕作放棄地復元活用システム構築事業」による対象地域の復元規模および植付品種

どんぐり植栽地：約 2,400 m² (クヌギ 200 本・栲 100 本・山繭養蚕、3 か年)
 野菜等栽培地 : 約 2,770 m² (あわ・きび・野沢菜・桑・にんにく)

4) 山田地域（あざみ園敷地内）における事業実施スケジュール

日 時	内 容
平成 23 年 8 月 6 日	山田耕作放棄地除草（〈社福〉フォーレスト八尾会や若林工業に協力を要請）
平成 23 年 9 月 5 日	耕作放棄地開墾・蕎麦の種まき
平成 23 年 10 月 7 日	蕎麦の収穫（JA 山田農協に協力要請）
平成 23 年 12 月 9 日	講演会：清水 治氏（山繭講師）
平成 24 年 2 月 8・9 日	社会福祉法人アルプス学園・安曇野市天蚕振興会天蚕センター 視察研修
2 月 23 日	山繭を利用した商品開発とクヌギ植栽地の整備

①あざみ園敷地内の耕作放棄地の復元



図 20 除草の様子（8/6）



図 21 利用者とあざみ園職員で行った開墾の様子（9/5）



図 22 利用者や保護者ボランティア、あざみ園職員で行った蕎麦の種まきの様子 (9/5)



図 23 JA 山田農協に協力による蕎麦の収穫(10/7)



図 24 清水 治氏による現場視察(12/9)



図 25 清水 治氏による講演会(12/9)



図 26 社会福祉法人 アルプス学園視察
多機能型事業所あすなろでの作業の様子 (2/8)



図 27 安曇野市天蚕振興会
天蚕センター視察(2/9)

5) 八尾地域（桐谷地区）の耕作放棄地での野菜の取り組み

○耕作地： 富山市八尾町桐谷2519番地 約1,000㎡の内 300㎡

高齢などの事情で、耕作を中止した方から借りることができ、道路沿いの圃場を使うことになった。2年前まで水田として使われていた土地であり、苧払機による除草とトラクターによる耕起作業で畝を作ることができた（図28～29参照）。

○栽培品目： 桐谷地区の特色を活かし、野菜、山菜、薬草そして果樹をブランド品として栽培することを目指す。その第一歩として、平成23年秋に、以下の野菜を定植した（図30～32参照）。

□ ニンニク 約200片 □ たまねぎ 約600本



図 28 トラクターによる耕耘作業



図 29 畝の元肥遣り



図 30 整備したニンニクと玉葱の畝



図 31 葉を伸ばしたニンニク



図 32 玉葱の定植作業

6) 八尾地域（桐谷地区）の耕作放棄地での果樹栽培の取り組み

①果樹収穫用桑栽培の準備について

八尾は明治まで養蚕業で栄えた町である。その面影は、現在、桑の葉を利用するお茶やお菓子にかろうじて見られる。そこで、桐谷地区を元気にする資源として、桑の実の特産地化を目指し、ララベリーなどの栽培を平成22年から始めた。雪深い桐谷地区での地植え栽培は、雪害と寒さと湿気による病気を予防するため、ポットでの栽培で挑戦することとした。平成23年は、6月から11月まで、他所で育苗した苗木を掘り上げてポットに移植し、桐谷集落が所有する倉庫に移送して保管した。来春以降は、倉庫周辺の耕作放棄地で、雑草を刈り取って栽培を行うことにしている（図33～35参照）。



図 33 桑苗木の掘り起こし



図 34 桑ポットの移送



図 35 桑ポットの保管

7) 八尾地域（桐谷地区）の耕作放棄地での蕎麦栽培の取り組み

NPO 法人アイ・フィールド・ファインが、平成 23 年より取り組む「桐谷有機農業のふるさとづくり」の発展的活動として、以下のとおり事業を実施した(図 36～38 参照)。

日 時	内 容
平成 23 年 8 月 6 日	桐谷集落でボランティアによる草刈り
平成 23 年 8 月 30 日	耕作放棄地開墾・蕎麦の種まき（撒いた種は JA より購入 7kg）
平成 23 年 10 月 29 日	蕎麦の刈り取り作業
平成 23 年 11 月 1 日	蕎麦の収穫・脱穀作業（収穫 16kg）



図 36 耕耘作業と種まき (8/30)



図 37 刈り取り作業 (10/29)



図 38 脱穀作業 (11/1)

8) 事業化に向けての検討

あざみ園では、生活介護の新事業として養蚕事業をスタートさせることにしている。平成 24 年度は、100 本のクヌギ苗を植樹する予定である。そこで、養蚕事業を展開していく上で、害虫対策と専門家とのネットワークづくりが大きな課題となるが、県内外の関係機関・施設と連携を図りながら、養蚕事業を軌道に乗せていきたいと考えている。

また、天蚕の加工品作りにも繋げていくため、職員の知識・技術向上は勿論のこと、何よりも利用者のやりがい結びつけられるような事業にしていかなければならない。

利用者が地域社会の一員としてその人らしい豊かな生活を創っていくためには、当園がまず地域に開かれた社会資源となり、双方向による人の交流がある施設にならなければならない。そのためにも、本事業をうまく活用し、人の流れを生み出したいと考えている。

9) 総評・まとめ

耕作放棄地復元活用システム構築事業は、今後生活介護の作業として、山繭の養蚕や山野草の栽培、そして、安心・安全な付加価値をつけたおいしい野菜栽培や完熟腐葉土の生産、カブトムシ等の昆虫を飼育販売する農園部門を一体的に管理運営していく事業として、さらに発展させていきたいと考えている。

そのための継続的な指導、助言や協働による生産活動を持続的に行うためにも、地域連携協定等の締結を着実に進めていきたい。

資料

Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト

Y・Yネットふるさと創造会議
事業構成団体の紹介

Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト 事業構成団体の紹介（1）

団体名 富山市八尾山田商工会
代表者名 会長 川原 敏彦



沿革

明治44年 3月 9日 社団法人八尾商工会設立
昭和19年12月20日 社団法人を解散、任意団体 八尾町商工会を設立
昭和35年 8月13日 「商工会の組織等に関する法律」の規定による八尾町商工会設立
昭和37年 8月28日 中小企業庁より「全国モデル商工会」に指定
昭和42年 3月23日 山田村商工会創立総会
昭和48年12月 5日 失業保険の優良事務組合として労働大臣表彰を受賞
昭和55年11月28日 経営改善普及事業に対する優良商工会として通商産業大臣表彰を受賞
平成11年12月28日 通商産業大臣より TMO 計画認定（県内唯一）
平成20年 3月13日 総務大臣表彰受賞（女性部）
平成21年 2月25日 富山市八尾山田商工会の設立認可
※ 平成23年3月31日現在 会員数 723 事業所

概要（紹介）

商工会は、昭和35年に制定された「商工会法」のもと、商工業者によって自主的に組織された総合経済団体である。国・県・市の助成のもと、地域内商工業の発展のため、商工業者の皆様に対して、様々な経営のアドバイスをするとともに、地域全体の活性化のためのまちづくりプランの策定や各種イベントの実施等において、行政や各種団体とのタイアップを推進している。

さらに商工会では、商工業者の皆様に役立つ様々な情報の収集・分析、関係機関や同業種・異業種間でのネットワークづくり、地域内の意見の集約と代弁等も行っている。

今回のプロジェクトに参加して

高齢者のニーズ（量、頻度、価格）を考慮した食事に関する助言、アンケート等におけるサービス利用者の意見収集方法に関する助言、より経費負担の少ない運営方法に関する助言等、主に持続経営可能な基盤づくりに関わるお手伝いをさせて頂いた。

Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト 事業構成団体の紹介（2）

団体名 山田地域社会福祉協議会
代表者名 会長 坂口 清志



沿革

平成17年 7月26日 設立
現在に至る

概要（紹介）

平成17年の行政の合併を機に、山田地域における高齢者の生活課題や福祉の問題を解決するために設立された。構成員は、民生・児童委員会、自治振興会、各種団体の代表、ボランティアの皆さんなど20名であり、連携を図りながら地域活動を行っている。

活動内容は、主に配食サービス、ささえあいネットワーク活動などを継続実施し、要援護者の安否確認、見守り、個別援助活動等を日々行っている。一方、子育ての不安解消や仲間づくりのための地域交流活動として、子育てサロン等の「児童健全育成事業」を実施し、高齢者の閉じこもり防止のための「ふれあいサロン」、「敬老会」を毎年開催してきた。また、広報紙を発行し、地区住民に対して、福祉の理解や活動への参加を促進している。

今回のプロジェクトに参加して

今日までは、あざみ園と地域との関係は、園祭・夏祭り・スポーツ大会への相互参加や地区広場の清掃作業等イベントによる交流が主であった。

しかしながら、今回の事業では障害福祉施設でありながら、「地域高齢福祉の一翼を担うあざみ園」として、その役割がクローズアップされたと思われる。特に配食サービスにおけるお年寄りとのふれあいは新鮮であり、これまでは、遠方ゆえに利用したくても出来なかったサービスであったため、今後もっと広範囲に拡大継続する（配食サービス、買物支援、お出かけ支援等）ことが、地域全体としても期待されていると考えている。

そして、これらのふれあいの中で、園と地域がさらに緊密な関係となり、外に開かれた施設として、利用者さんが一人でも多く社会復帰されることを願いたい。

Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト 事業構成団体の紹介（3）

団体名 越中八尾ふるさとづくり協議会

代表者名 会長 岩倉 伸一

沿革

平成20年8月6日 設立

現在に至る

地域資源の再生・活用を通じて、持続可能で活力ある地域社会の実現を図ることを目的とする。

構成団体

- ・ NPO 法人大長谷むらづくり協議会
- ・ 黒瀬谷交流センター運営委員会
- ・ 河西活性化協議会
- ・ 農事組合法人八尾農林産物加工組合
- ・ 社会福祉法人フォーレスト八尾会
- ・ NPO 法人愛和報恩会
- ・ 八尾ふるさと発見塾
- ・ 富山県がうん天蚕の会
- ・ NPO 法人アイ・フィール・ファイン
- ・ 桑 de ルネッサンス研究会
- ・ 「八尾スローアートショー」実行委員会
- ・ (株) 八尾サービス



概要（紹介）

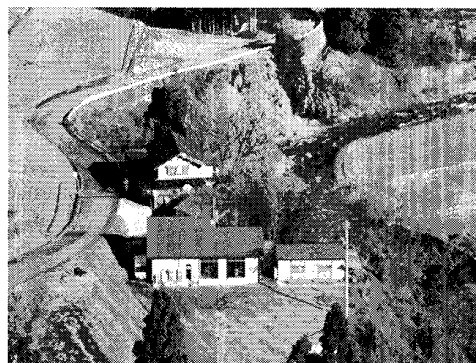
- (1) 山里文化の再発見・継承・活用～技術の継承・後継者育成～
- (2) 地域資源を活用したグリーンツーリズムの推進
- (3) 特産品の開発、販売促進による地域経済の活性化
- (4) 地域を支える人材の育成
- (5) 新規定住の促進
- (6) 地域を支援する体制の構築

今回のプロジェクトに参加して

越中八尾ふるさとづくり協議会からは、本事業をバックアップするために、NPO 法人愛和報恩会、富山県がうん天蚕の会が連携団体として参加した。今後も、多様な団体と連携し、山田地域と八尾地域のみならず、誰もが住みなれた地域で幸福を感じて暮らし続けることができる地域社会の実現を図りたいと考えている。

Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト 事業構成団体の紹介（４）

団体名 特定非営利活動法人 愛和報恩会
代表者名 理事長 吉田 勇次郎



沿革

平成 3年 4月 愛和報恩会の前身有限会社愛和环境開設
平成 9年 12月 任意団体愛和報恩会開設
平成 10年 4月 地域共働作業所報恩の家開設
平成 15年 10月 特定非営利活動法人愛和報恩会設立開設
12月 グループホーム西川倉寮開設
平成 17年 11月 グループホーム下牧寮開設
平成 18年 10月 障害者自立支援法施行 多機能型就労支援事業所「地域共働作業所報恩の家」開設
(就労移行支援事業・就労継続支援 B 型事業所)
ケア・グループホーム一体型事業所「こころの学校八尾西川倉寮・下牧寮」開設
11月 ケア・グループホーム一体型事業所「こころの学校富山北久方寮」開設
平成 19年 12月 ケア・グループホーム一体型事業所「こころの学校富山北千歳寮」開設
平成 20年 8月 ちいほ茶屋オープン
9月 新作業棟竣工 惣菜製造・山の食堂農歩
12月 就労継続支援 A 型事業所「地域共働作業所報恩の家」開設
平成 21年 6月 ケア・グループホーム一体型事業所「こころの学校八尾東川倉寮」開設

概要（紹介）

当会では、障害のある人達とその家族、会員、地域の人達が互いに理解し、助け合い、共働して『しあわせ』を実感できる地域社会<福祉の里>創りに取り組んでいる。なかでも、農業を経営の軸におき、地域とのかかわりを大切にしながら、新しい福祉のあり方を模索・創造・実践している。

今回のプロジェクトに参加して

閉塞的になりがちな福祉団体同士による連携事業という点に、面白さを感じた。また、がうん天蚕の会や八尾山田商工会等、地域に基盤を持つ団体が実際に事業にかかわることで、企画が現実的に展開できるのかといった判断の難しさや運営の厳しさも感じる事ができた。また会議では、各連携団体の持つ課題について腹を割って話し合うことができ、回をかさねるごとに課題も鮮明になった。したがって、協働することに意味のある企画であることが分かるとともに、実際に実践できたことは、満足している。また、配食サービス事業については、どの団体も共通して『製造後の配達』の問題を挙げており、このことは当会においても、継続は困難であるとした。

以上のことから、各方面において事業展開を図るためには、各団体が着実な経営とマネジメント力をつけておくことが、まず何よりも優先すべきであると感じた。

Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト 事業構成団体の紹介（5）

団体名 富山県がうん天蚕の会
代表者名 会長 友咲 貴代美



沿革

- 平成19年 3月12日 天蚕飼育を継承する「富山県がうん天蚕の会」を発足
八尾町檜尾字外雲地内の天蚕圃場 450 m²でクヌギ（飼料樹）130本を継承
- 平成20年 5月 1日 八尾町上笹原地内の荒廃クヌギ畑 350 m²を整備しクヌギ 80本を復活
- 平成21年 6月 1日 外雲南側の耕作放棄地 800 m²を開墾しクヌギ 200本植樹
- 平成22年 4月29日 八尾ふるさとアカデミー「天蚕学科」を開講（受講生 12名）
- 平成22年 6月 1日 外雲北側の耕作放棄地を 600 m²開墾し 200本植樹
- 平成23年 5月 1日 外雲南側の開墾地にクヌギ 100本増植
- 平成23年10月 1日 外雲近隣の耕作放棄地 500 m²を開墾し外雲第二圃場としクヌギ 120本を植樹
（クヌギ圃場 2,700 m² クヌギ本数 830本 会員数 31名）

概要（紹介）

八尾地域は、江戸時代より養蚕が盛んで、江戸時代中期には全国の蚕種（蚕の卵）の出荷量の25%を占めるほどであった。その繁栄はめざましく、八尾の伝統文化として知られている「おわら風の盆」や豪華絢爛な「曳山」は、養蚕業で潤った栄華のシンボルとして、狭い町にもかかわらず6基もつくられている。

しかし、大量生産が可能な化学繊維の普及が進むにつれ、生糸のニーズが激減し、今では養蚕農家は無くなってしまった。

県養蚕試験場の職員であった故井下堅佑氏は、八尾繁栄の基盤をつくった養蚕業の消滅を憂い、25年前より八尾町がうんの地で天蚕飼育に取り組み、八尾の養蚕文化を守ってきたが、平成18年に他界。継承者がいなくなったため、有志により養蚕文化を継承すべく、天蚕飼育を中心に、里山文化の伝承や中山間の地域活性化活動として、平成19年「富山県がうん天蚕の会」を設立した。

今回のプロジェクトに参加して

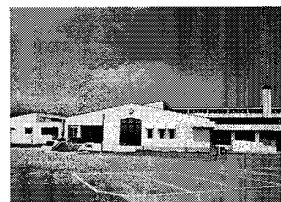
活動内容の異なる各団体との連携を図りながら、配食サービス事業・耕作放棄地復元活用システム事業やネットワーク作りの一環としてプロジェクトに参加した。

耕作放棄地復元活用事業では、私たちの活動である天蚕飼育に取り組みむことで、耕作放棄地の復元に寄与することができた。また、会議や研修会・視察等を通じ、各団体の内容や苦悩と課題も知ることができ、今後の新事業を計画していく上で、改めて連携の大切さに気づかされた。

平成24年度は、さらにネットワークと活動の輪を広げ、新たな事業に取り組みたい。

Y・Yふるさと創造・絆プロジェクト 事業構成団体の紹介（6）

団体名 社会福祉法人恵風会 あざみ園
代表者名 園長 堀岡 浩



沿革

昭和62年 4月 1日 知的障害者更生施設あざみ園開設（定員 一般棟 20人、重度棟 30人）
平成 元年 4月 1日 一般男子棟（定員増 30人）開設
平成 9年 4月 1日 富山市知的障害者通所更生センター「あすなろ」開設
平成16年 4月 1日 富山市知的障害者第2通所更生センター「第2あすなろ」開設
平成18年 4月 1日 グループホーム「赤田ホーム」開設
平成18年 9月 1日 富山市婦中知的障害者通所更生センター「つつじ」開設
平成23年12月 1日 富山市生活介護事業所「第一あすなろ」「第2あすなろ」開設
富山市婦中生活介護事業所「つつじ」開設
平成24年 3月 1日 ケアホーム「羽根の家」開設
就労継続支援B型事業所「どんぐり工房」開設
平成24年 4月 1日 障害者支援施設あざみ園開設 現在に至る
（生活介護事業 定員 60名、施設入所支援事業 定員 60名）

概要（紹介）

国際障害者年（昭和56年）の記念事業の一環として、富山市内の知的障害（児）者親の会が、会員で施設入所希望調査を実施した結果、入所希望者が予想以上に多かったことが分かった。そこで、ただちに関係機関へ伝えたところ、富山市の障害者対策長期行動計画に反映されることとなった。

昭和59年、富山市と富山県の協議により、知的障がい者施設建設が決定され、「社会福祉法人 恵風会」を設立、知的障害者入所更生施設、及び通所更生センターを運営することとなった。

平成24年4月には、障害者自立支援法に伴う新事業へ移行することとなっている。

今回のプロジェクトに参加して

配食サービス等実験提供事業、耕作放棄地復元活用システム構築事業、そして、Y・Yネットふるさと創造会議というネットワークを構築する一連のプロジェクトを企画した。

配食サービス等実験提供事業では、地域サービスへの足がかりとなり、耕作放棄地復元活用システム事業では、中山間地域の再生に一翼を担えたと思っている。新事業を通して、改めて新たなサービスを始める大切さに気づかされた。平成24年度は、よりネットワークを広げ、さらなる事業の展開、新たな事業の開発に取り組みたいと思っている。

平成 23 年度「独立行政法人福祉医療機構」助成
(地域連携活動支援事業)

平成 23 年度

「Y・Y ふるさと創造・絆プロジェクト」

実 施 報 告 書

Y・Y ネットふるさと創造会議

報告書作成委員会（事務局：社会福祉法人恵風会 内）

製作協力：富山国際大学子ども育成学部（村上満研究室）

〒930-2102 富山県富山市山田宿坊 1 番地 8

電話 076(457)2301 FAX. 076(457)2303

E-mail azamien@knei.jp

URL <http://www.knei.jp/~azamien/index.html>